

県連交流山行報告 筑波山

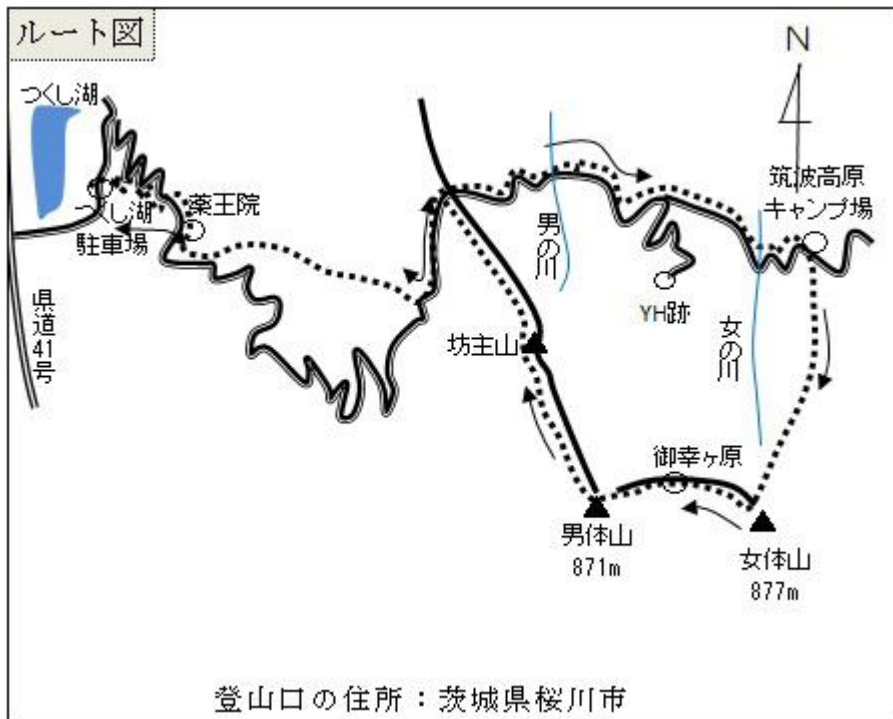
かがりび山の会 伊東春正、川口光雄

11月15日秋晴れの中、裏筑波を歩いてきた。

参加会：かがりび山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、ちば山の会、東葛山の会、岳人あびこ、松戸山の会、山の会らんたん

参加者：29名

コース：



つくし湖 P7:50→8:10 薬王院→林道→10:00 つくば高原キャンプ場→11:15 女体山→11:45 御幸ヶ原(昼食)→12:55 男体山→13:35 坊主山→林道→15:10 薬王院→15:50 つくし湖P 所要時間：8時間

工程：

つくし湖駐車場に向かう途中、双耳峰の筑波山が美しい。



駐車場は15台程度しか停められないが、そば処つくし亭のご好意により、裏の空き地を開放していただき、全車一か所に駐車することができ、予定通り出発した。



まず薬王院を見学、樹齢300年～500年といわれるスダジイ（椎の木）、県文化財の三重塔や仁王門が見事である。



林道歩きの途中の眺望では、燕山、加波山、丸山、足尾山の筑波連峰が一望できる。

男の川登山口、女の川登山口を経て、つくば高原キャンプ場に到着。この時期のキャンプ場は閉鎖中で閑散としており、気兼ねなく集合写真が撮れた。



ここから女体山を目指して一気に登る。静かな山歩きはここまでで、女体山～御幸ヶ原～男体山はいつも通りの人込みである。

参加者のお孫さんが幼稚園の遠足できており、女体山で一緒に写真を撮っていた。
御幸ヶ原で昼食とする。



昼食後、樹齢800年の紫峰杉（しほう）を見て、男体山に向かう
筑波山は、朝は藍、昼は緑、夕は紫に山肌が表情を変えることから、紫峰と呼ばれているとのこと。

男体山ではもやがかかって、富士山の遠望はかなわなかった。
ここから坊主山をめざして下山開始、急勾配な階段を経て、坊主山に到着。
眺望はないが、労山マークに似た三角形の岩の前で記念撮影をする。



下山途中の伐採跡の切り株に腰を下ろし、筑波連峰のパノラマは、ラストを飾る景観だった。



参加者に聞くと裏筑波は意外と歩いていない方が多く、今回のハイキング・コースに満足されたようである。

所感：

交流山行の主旨は、主催会が負担とならないよう、現地集合、現地解散で参加する会それぞれが山行計画書を作成した上で、一緒に山に登り交流を図るということであった。当初計画では、通常のルートはすでに登られていると思い、女の川を登って男の川を下る、ややバリエーション的なルートを設定して、各会に呼びかけた。

参加は、2,3の会で10人くらいだろうなと思っていたが、人数が膨れ上がり、しかも参加者の半分以上が70歳以上であるため、コース設定に不安を感じ伊東が下見を行った。結果、女の川の登りは急こう配で危険箇所があるため、ルート変更を検討、今度は変更ルートの時間見積のため、川口が下見をして時間設定をやり直した。結果、ほぼ計画どおりの山行ができ、2回の下見が功を奏した。

交流山行では、他の会の参加者のレベルがわからないため、ハイキングルートが無難であり、他の会でも、このような交流山行が行われることを期待する。

次回は、カタクリやニリンソウが咲き乱れる春に、女の川、男の川を企画したいが、技術的難易度を示し、参加者を絞る必要があるだろう。

最後に、参加者から嬉しい感想が寄せられているので紹介する。

『初めて知るルートで、「山を自由に楽しむってこうでなくては?」と強く思いました。』

天気に恵まれ参加者にも恵まれ 県連活性化目的の交流山行を成功裏に終えたことに感謝いたします。

” 継続は力なり ” です。続けていきましょう！

千葉県連交流山行『筑波山』に参加して

安彦 秀夫（東葛山の会）

全く個人的な感想（裏話）を披露します。

『交流山行』の案内見て直ぐ参加を決めました。

と言いますのは、裏筑波の『男の川』、『女の川』、『坊主山』と、未だ足を踏み入れたことのない場所を巡るコースが計画されていたからです。

東葛山の会として7名の参加希望者があり、本来であれば、車2台に分乗ということでしょうが、私は単独で現地に向かうことを了承してもらいました。駐車場に限りがあり、問題なく停めることができるかどうか、一抹の不安はありましたが…。

『つくし湖駐車場』に早めに着きましたが、既に2台は着いており、他の会の車も次から次と着き、集合時間には全員が揃いました。心配していた駐車場も、幹事の事前の交渉で隣接の空き地も利用することができるようになっていました。

参加者の中には、これまでに県連で実施した海外登山に参加された人もおり、暫くぶりに元気な姿に接し、近況などを話しあうことができ嬉しかったです。『交流山行ならではの賜物』と企画をしていただいた担当の方に感謝あるのみです。

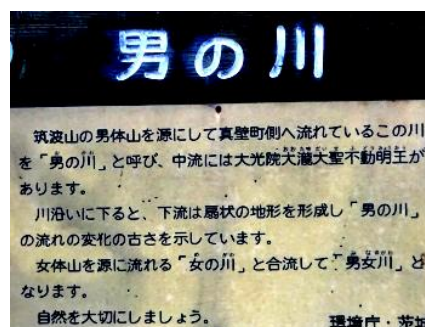
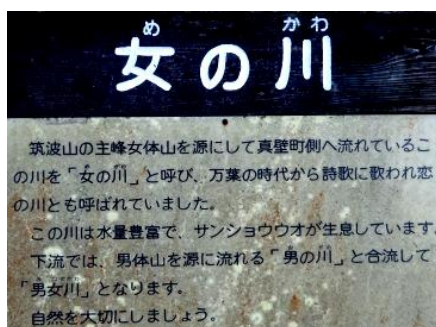
女体山山頂は、なぜか一方通行（？）になっており、その列は殆ど動かない3密。そして山頂も予想をはるかに超えるハイカーで3密。写真を撮り早々に下りました。

御幸ヶ原に着いた時には、帰りのケーブルカー乗車のための長蛇の列ができており、これを見た小さな子供連れの家族に、「歩いて下山したらどのくらいかかりますか？」と聞かれ、「ケーブルカー沿いの道で一般的には70分ほどですかね」と答えたものの、服装や足回りから見て『やまや（？）』ではないな…という印象でしたので、どのようにして下山したのか…ズーと気になりながら歩いていました。

暫くぶりに大勢での山歩きを楽しむことができました。一人の黙っての歩きとは違い、多くの人（仲間）と山を楽しめる

…ということは、嬉しいことですね。コロナ禍の中でもお互いが注意しあいながら行動すれば楽しむことができることを実感できた1日となりました。

当初予定の沢コースは荒廃していたようで、歩くことはできませんでしたが、『取り付き点』などを知ることができたので、改めて『歩いてみたい…』という思いを強くして帰路につきました。楽しみが増えました。（2020/11/20/Fri.）



裏筑波 交流山行報告

【日時・場所】 2020.11.15(日) 快晴 裏筑波

【参加者】 主催 かがりび山の会 参加会 ちば山(菅井 寺崎 八角) 合計 29名

【報告】 千葉→四街道→横芝光町牛尾交差点 6:07→7:40 つくし湖駐車場

多くの方は県下から集まっているものの顔見知りのようで、始めから和気藹々とした空気。私にとっては初めての集団にもかかわらず居心地のよさを感じた。

8:10 薬王院着。境内は静かで山の会の面々のおしゃべりが響き渡っていた。正式には「椎尾山薬王院」というような。住職さんはまだ若く37?とか、リーダーさんとは顔見知り(下見以来の?)のようで親しく話していた。寺社はとても古い建造物で、1200年の歴史があるとか。大木のスタジイにはびっくり。寺のまわりには何本もの巨木がどっしりと構えていた。山門に両仁王像、本堂の脇には古い三重の塔、境内には大きな梵鐘があり、何人かが打ち鳴らしていた。林道を進んで行くと「林道鬼ヶ作線」の表示板の解説には「真壁町が昭和47年から開設」と書いてあった。平成15年につくり終えたとある。

やがて1時間ほどで川筋に出る。伐採された杉木立や紅葉を始めた雑木林に挟まれ木々の間の小川には水はなく川底は大小の石で覆われていた。年月を感じる「男の川」の表示板には『男体山を源にする「男の川」(おのかわ)と女体山を源にする「女の川」(めのかわ)が合流して「男女川」(みなのかわ)になる』と書いてあったが、菅井さんと他会の女性とは「おかしいなあ、そんなわけない。男女川は表筑波の方で、男の川は裏筑波で合流のしようがない。」などと言っていた。15分ばかり歩くと今度は「女の川」(めのかわ)。八角さんは「筑波は、万葉の時代から詩歌で歌われてきている。」と、万葉の世界に浸っていた。「つくば高原キャンプ場」を通り、10:00過ぎ、小休止。また、歩きやすい山道をどんどん行く。女体山の直下に出る。この休日は天気がよく、山歩きにはもってこいの日だったので、どこかの子ども会?の集団やら他の家族連れやらの人々で、女体山頂付近は大渋滞。登頂は諦めたが、グループの何人かは並んで登ったらしい。そこから御幸ヶ原に行く狭い山道は登る人、降りる人で大渋滞。12時前には御幸ヶ原に着き、昼食にありつけた。山頂駅前にはケーブルカーに乗る人々の長い列。

御幸ヶ原の横から少し離れた所に有名な紫峰杉や縦横微塵に枝を伸ばしたヒノキ、太い幹のミズナラがある。自然研究路を行くと馬の背のような岩、「身立岩」とか。そこから男体山山頂に行き帰路に。行きに麓から見た『坊主山』は、山頂に向かって真っ直ぐ山道が通っていた。「登ってみたいね。」と近くの人と話していたが、帰りはその道だったので嬉しくなった。

坊主山で、しばし休息。伐採されホントに坊主山だ。全面の紅葉がすばらしい。植林をした檜の苗木が根付いてはいたが、ここもいずれ檜林になるのかと思うと、ちょっと寂しい。山道をどんどん下り、薬王院の大きな石垣を横目で見ながら、崖下に生っていた小さなミカンをちょっと失敬。でも、とても酸っぱかった。16:00

つくし湖集合場所に到着。早く着いた会は帰り支度で待っていた。会に入って初めての登山だという若い男性は、思いのほか長いルートで足を引き摺っていた。嫌にならないといいのだが。

今までは筑波山登山というと、表の神社からのルートしか知らなかったが、この「裏筑波」は全く違う顔でとてもいいルートだった。(寺崎記)

県連交流山行参加報告

千葉こまくさハイキングクラブ

こまくさハイキングクラブは女性4人組での参加です。
こまくさの移動手段は公共交通機関が基本ですが、今回はコロナ禍や朝早くの集合の為、車での移動です。

ご案内していただいた、かがりびのKさんは見せたいところが沢山あるようで、気を使いながらどんどん進み次から次へと説明してくれます。平貞盛の碑を横目に見ながら行った薬王院の三重の塔、巨木スダジイの群生から始まり、裏筑波から見える山並み、樹齢数百年の松、樅、筑波詠んだ横瀬夜雨の碑、親鸞の碑、霞んで見えない霞ヶ浦や富士山等々最後に薬王院に戻って県指定文化財の山門を見る、盛り沢山の行程です。

途中女体山から始まり4つの山を縦走します。そのうちの一つ坊主山からは眼前の木が伐採されていて、加波山方向の広がる山並みは素晴らしくずっと眺めていたい時間でした。休憩含んで約8時間の歩きでしたが、行ったことのない御幸ヶ原近くの紫峰杉、松岩等今まで知らなかった場所を教えていただき、又、歌を歌いながらと秋の日の中にくっきりと見えた山並みのように色鮮やかな楽しい一日でした。

女体山、男体山は子供たちや若者でにぎわっていましたが、今回の静かなる裏筑波はぜひ仲間に案内したいと思いました。又、初めてご一緒する他会の方々との交流も楽しかったです。

計画してくださった、かがりび山の会の皆様お世話になりました。

ありがとうございました。

(記) 大越幸江、川口久美子、川北紀子、海瀬典子

千葉県連交流ハイクについて

加盟会から交流の場がないとの意見が出され、理事会で交流山行の提案がありました。しかし、実施には幾つかの問題もありました。山行リーダー、参加者募集方法、山行管理等の考え方や運用は会により違いがあります。中には交流山行は必要を感じないとの会もありました。幾つかの不案点もありましたが、先ずは実施するそして修正しながら前に進む事にしました。

会山行、個人山行を「県連交流山行」として、山行場所、実施日時・集合場所を案内する。参加希望会は、リーダー会に連絡し、山行管理は会のルールで実施する。

・第1回：2018年10月3日 房総・とび岩ハイキング

君津ケルン山の会（CL）・ふわくハイキングサークル 参加者 7名

・第2回：2018年11月3・4日 奥多摩 三条の湯ハイキング

千葉こまくさハイキングクラブ、ちば山の会（CL） 参加者 7名

・第3回：2020年11月15日 茨城 筑波山ハイキング

かがりび山の会（CL）、東葛山の会、岳人あびこ、松戸山の会

山の会らんたん、千葉こまくさハイキングクラブ、ちば山の会

加盟会の交流、活動の活性化など期待は大きいですが、継続出来るかがポイントです。

—— 役員会 ——